

## 素材生産量の設定について

### 1 概要

本県の素材生産量は全国第2位で、特にスギの素材生産量は29年連続第1位となっており、本県を代表する指標の一つである。

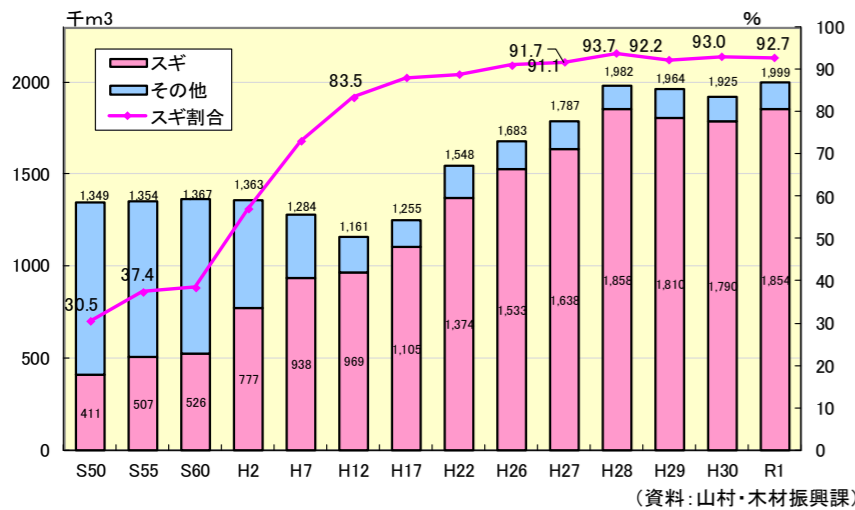
また、生産された木材は、大半が県内で製材・加工され、製品の約7割が県外に出荷されており、林業産出額や再生林面積など、林業・木材産業のあらゆる指標の基準となるものである。

### 2 目標値と実績値

	計画期間	目標値 (千m <sup>3</sup> )	実績値 (千m <sup>3</sup> )	備考
第五次	H13～H22	1,500	1,548	
第六次	H17～H26	1,500	1,683	
第七次	H23～H32	1,900	1,999	実績値はR元年

### 3 推移

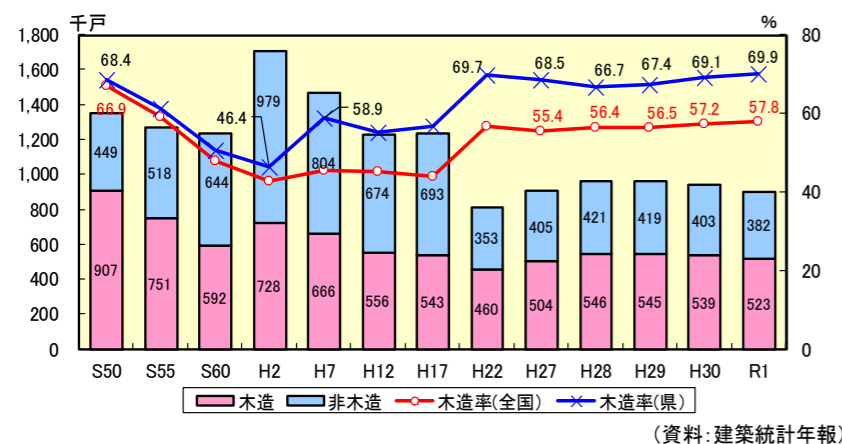
【素材生産の推移】



○ 令和元年の素材生産量は、約200万m<sup>3</sup>と前年より増加しているが、平成28年からほぼ横ばいとなっている。

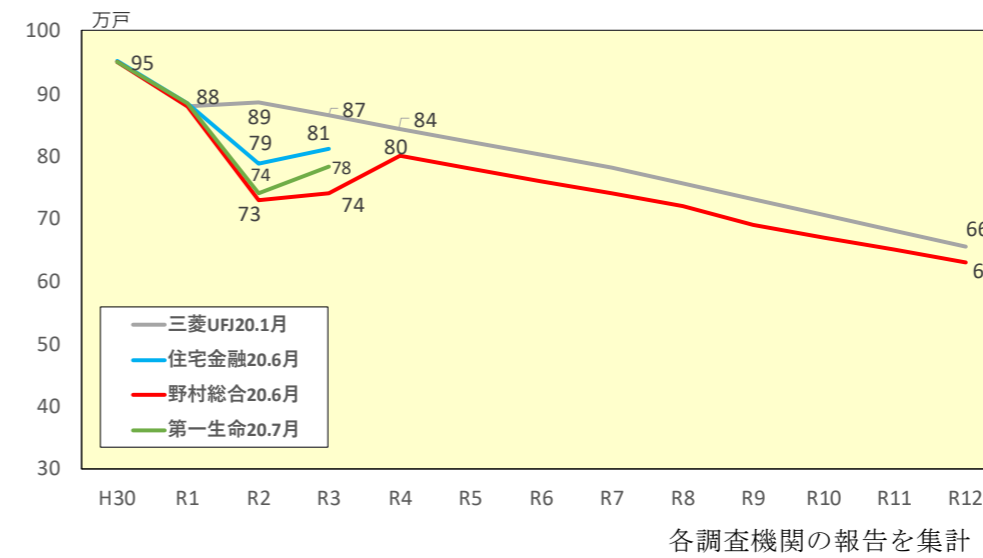
### 4 新設住宅着工戸数の推移・予測

【全国の新設住宅着工戸数の推移と木造率】



○ 令和元年の全国の新設住宅着工戸数は90万戸（木造率57.8%）で、対前年比4%減少している。

【新設住宅着工戸数の予測】



○ 令和2年度の新設住宅着工戸数を73～89万戸と予想している。

○ 令和12年度の新設住宅着工戸数を63～66万戸（対元年比-25～-27%）と予想している。

### 5 目標値の設定

#### (1) 設定方法

##### ①七次計画まで

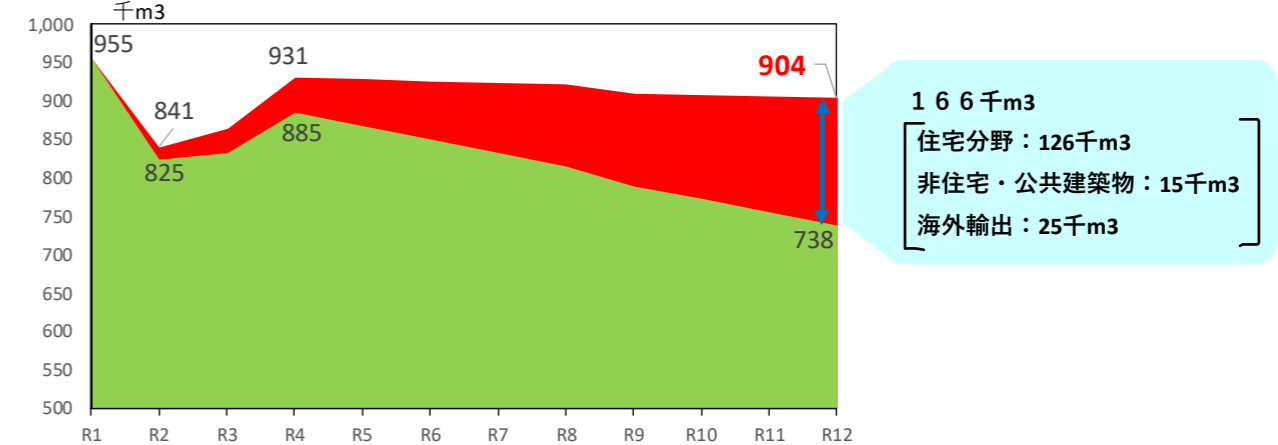
・県内の製材工場の生産量を推計し、それに見合う素材生産量を設定

##### ②八次計画

・最も厳しい新設住宅着工戸数の将来予測から推計される製品出荷量（738千m<sup>3</sup>）に、県産材利用促進対策による需要量（166千m<sup>3</sup>）を加え、素材生産量を設定

#### (2) 県産材利用促進対策

【需要見通しに基づく製品出荷量】



- ①住宅分野：梁や桁の横架材など県産材が使われていない部材への県産材の利用促進
- ②非住宅・公共建築物等：都市部の自治体等との連携等による木造・木質化の推進
- ③海外輸出：高度な木材加工技術を活かした、付加価値の高い県産材製品の輸出拡大

素材生産量の目標値：190万m<sup>3</sup>